

# 設問別調査結果 [小学校国語A:主として知識]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◇	79.4
	書くこと	2	◆	67.5
	読むこと	4	—	82.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	9	◆	86.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	◆	43.2
	話す・聞く能力	3	◇	79.4
	書く能力	2	◆	67.5
	読む能力	4	—	82.1
	言語についての知識・理解・技能	9	◆	86.3
問題形式	選択式	4	◇	72.5
	短答式	13	◆	84.3
	記述式	0		

表中の札幌市と全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 ○…+3.1ポイント以上  
 ◇…+0.1ポイント～3.0ポイント  
 —…ほぼ同程度  
 ◆…-0.1ポイント～-3.0ポイント  
 ●…-3.1ポイント以下

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			札幌市		全国(公立)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)
1- (1)	漢字を読む (新しいビルを建築する)					○				○	○	◇	1.5	89.3	1.3
1- (2)	漢字を読む (親から独立してくらす)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○				○	○	◇	2.1	92.1	2.4
1- (3)	漢字を読む (参加することを話す)					○				○	○	◇	1.1	96.2	1.3
1- (1)	漢字を書く (病院でいしよにみてもらう)					○				○	○	●	5.7	83.1	4.2
1- (2)	漢字を書く (原からたいようがのぼる)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○	○	●	2.5	82.6	1.6
1- (3)	漢字を書く (白いぬのを青くそめる)					○				○	○	◆	6.3	90.5	4.2
2	話し手の話の内容を聞きながら書いた質問について、その問いを適切に説明したものを選択する	問いを明確にして質問をきる	○				○			○		◇	0.7	68.2	0.6
3ア	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容を取り出して書く	目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合う	○				○			○		◇	0.9	92.5	0.9
3イ	収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から共通する内容を取り出して書く		○				○			○		◇	1.0	80.4	1.1
4	四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する				○				○		—	0.8	73.3	0.6
5ア	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を取り出して書く	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える					○			○		◇	1.4	91.1	1.5
5イ							○			○		◆	1.8	92.2	1.7
6	創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する	表現の効果について確かめながら物語を創作する	○	○				○	○	○		◇	1.3	71.8	1.4
7	新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く	目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書く	○			○				○		●	7.2	43.2	7.5
8	日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える	日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解する					○			○	○	◇	6.4	79.7	6.6
9-1	学年別漢字配当表に示されている漢字(申)の正しい筆順を適切に捉える	学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く				○				○	○	◆	7.2	82.7	6.7
9-2	学年別漢字配当表に示されている漢字(赤)の正しい筆順を適切に捉える					○				○	○	●	7.8	81.4	7.0

## 【設問分析】

### 1 漢字の読み書き

①は、学年別漢字配当表に示されている当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるものである。設問一は漢字を読むことについて、設問二は漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

#### 【設問一】漢字を読むこと

- (1) 4年生の配当漢字である「建」と5年生の配当漢字である「築」の熟語「建築」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (2) 5年生の配当漢字である「独」と1年生の配当漢字である「立」の熟語「独立」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「許」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問二】漢字を書くこと

- (1) 3年生の配当漢字である「い」と「しゃ」の熟語「いしゃ」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (2) 2年生の配当漢字である「たい」と3年生の配当漢字である「よう」の熟語「たいよう」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「ぬの」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

言語事項における「漢字を読むこと」については、全国の平均正答率と比較すると三問ともやや上回っており、正答率も高い。今後も引き続き、漢字の読みについて確実な定着を図るようにしたい。

また、「漢字を書くこと」については、三問中二問は全国の平均正答率を下回っており、一問はやや下回っている。また、過去の調査においても同様の課題が見られる。漢字を書くことの指導においては、習得した漢字を各教科等や日常生活で使用する文章の中で使えるようにすることが重要である。そのためには、学習した漢字を繰り返し書いて練習するだけでなく、文の意味を理解した上で漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義や同訓異義、部首や点画に気を付けて書いたりすることができるように指導することが求められる。漢字の習得は、国語科のみならず各教科等の学習の基礎となる力である。日常生活において漢字を正しく使うとともに、漢字を含む語彙を拡充するために、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けるようにしたい。

### 2 狙いを明確にして質問をする

②は、話し手の話の内容を聞きながら狙いを明確にして質問をすることができるかどうかをみるものである。

- ・調べたことについての発表を聞きながらカードに書いた質問の狙いを適切に捉える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「話の中心に気を付けて聞き、狙いを明確にして質問すること」については、全国の平均正答率をやや上回っている。

話を聞くことの学習においては、興味や関心をもち、聞く目的を明確にしながら聞くとともに、話の要点や気付いたこと、疑問に思ったことなどをメモに取りながら話を聞くことができるように指導することが重要である。なお、メモを取る際には、重要な語句や話の中心をキーワードとして取り出したり、見出しに合わせてまとめたりすることができるように指導することが大切である。また、低学年の時期においては比較的自由的な質問を許容するとともに、中学年以降においては、目的や立場を明確にし、様々な観点に合わせて質問を工夫することができるように指導することも大切である。

### 3 情報を関係付けながら話し合う

③は、目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うことができるかどうかをみるものである。

- ・収集した情報を関係付けながら話し合い、整理した図の中から適切な内容や共通する内容を取り出して書く設問では、ア、イともに全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」における「目的に応じ、収集した情報を関係付けながら話し合うこと」については、全国の平均正答率をやや上回っており、正答率も高い。

今後も、知識や情報を図表などに整理し相互関係を押さえながら話し合うことができるように指導することが大切である。その際、ウェビングやベン図、カードなどを用いて情報を整理したり分析したりすることが有効である。話合いの規模については、ペアや小グループから学級全体へと話合いの形態を工夫して指導することが大切である。また、他教科や特別活動等との関連を図り、集団としての意見をまとめる話合いの場を設定するなど、日常生活に生きて働くような指導が大切である。

#### 4 音読の仕方を工夫する

④は、場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読することができるかどうかをみるものである。

- ・四つの会話文の音読の仕方として適切なものをそれぞれ選択する設問では、全国の平均正答率とほぼ同程度である。

「読むこと」領域における「場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読すること」については、全国の平均正答率とほぼ同程度である。

今後の指導においては、内容の中心や場面の様子を捉えて音読することが重要である。そのためには、語や文などの表現をばらばらに取り上げるのではなく、登場人物の変化や場面の移り変わりを捉えて音読することができるように指導することが大切である。具体的には、音読や朗読、群読の発表会や身体的な表現を交えた劇などの言語活動を設定し、文章の内容に即した読み方の工夫について、互いに評価し合うような指導が効果的である。

#### 5 百科事典の内容を捉える

⑤は、百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉えることができるかどうかをみるものである。

- ・ア ノートの記述内容を押さえ、それに合った語を説明の文章から正しく取り出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・イ 上位の概念で表した記述と関連付けてノートの記述内容を捉え、それに合った語を説明の文章から正しく取り出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域に関わる「ノートの記述内容を押さえ、それに合った語を説明の文章から正しく取り出すこと」については、全国の平均正答率をやや上回っている。また、「上位の概念で表した記述と関連付けてノートの記述内容を捉え、それに合った語を説明の文章から正しく取り出すこと」は、正答率は高いが全国の平均正答率をやや下回っている。

今後の指導にあたっては、語と語、文と文などの関係を押さえ、文章の全体と部分とを相互に捉えながら読むことができるように指導することが大切である。具体的には、本問題で示したノートの記述内容や形式のように、目的に応じて内容を箇条書きにして簡潔にまとめたり小見出しを付けたりするような指導が効果的である。

#### 6 物語を創作する

⑥は、表現の効果について確かめながら物語を創作することができるかどうかをみるものである。

- ・創作した物語の語り手が寄り添っている人物として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「書くこと」と「読むこと」の領域における「表現の効果について確かめながら物語を創作すること」については、全国の平均正答率と比較するとやや上回っている。物語を創作する際には、読むことの指導との関連を図りながら、登場人物がそれぞれの役割をもっていること、フィクション（虚構）の世界が物語られていることなどの物語の基本的な特徴を押さえおくことが重要である。また、登場人物の設定や物語全体の構成（状況設定-発端-事件展開-山場-結末など）の効果や一人称、三人称などの語り手の視点について理解し、これらの観点から評価し合うなどの指導が大切である。

## 7 新聞の報道記事のリードを書く

【7】は、目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことができるかどうかをみるものである。

- ・新聞の報道記事のリードに必要な事柄を整理し、一文に書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「書くこと」領域における「目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと」については、全国の平均正答率をやや下回っており、正答率も低い。一文にまとめて書くという条件を満たさず、二文、三文にして解答している誤答が多く見られた。なお、平成22年度の調査においても、文の論理を考えて書く設問で課題が見られた。

複数の文を一文に統合して書く際には、事実や感想、意見などをそれぞれ一文にまとめた上で、文の意味を変えないように的確につなげて書くように指導することが重要である。また、重文や複文などの一文を複数の文に書き分けることができるように指導することも重要である。いずれの場合も、目的や意図に応じ、文の定義や構成を理解し、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係などを整えるとともに、接続語や指示語などを適切に使うことができるように指導することが求められる。

## 8 慣用句の意味を理解する

【8】は、日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解することができるかどうかをみるものである。

- ・日常生活で使われている慣用句を集め、それらの意味を適切に捉える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「言語事項」における「日常生活で使われている慣用句の意味を正しく理解すること」については、全国の平均正答率をやや上回っている。慣用句の意味を指導する際には、国語辞典などを用いて調べることに加え、自分の表現に用いることができるように意図的に指導することが重要である。具体的には、本や文章を読んで、その中に使われている慣用句を探して一覧表にまとめるなど、具体的な活動を通して指導することが大切である。また、慣用句を短文にまとめて収集したカードなどを活用し、スピーチや説明的な文章を書くときに用いるように指導することが効果的である。

## 9 漢字を筆順に従って書く

【9】は、学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書くことができるかどうかをみるものであり、2つの設問で構成されている。

【設問一】3年生の配当漢字である「申」の正しい筆順を捉える設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】1年生の配当漢字である「赤」の正しい筆順を捉える設問では、全国の平均正答率を下回っている。

「言語事項」における「学年別漢字配当表に示されている漢字を筆順に従って正しく書く」については、全国の平均正答率と比較すると、二問中一問で下回っており、もう一問はやや下回っている。また、他の設問に比べると無解答率はやや高い。

漢字の筆順の指導においては、「上から下へ」「左から右へ」「横画がさき」などの原則を踏まえることが重要である。ただし、原則をただ暗記するのではなく、個々の漢字と結び付けながら理解できるように指導することが大切である。また、毛筆を含めた国語科の学習をはじめ、各教科等の学習や日常生活の中でも、正しい筆順に従って書くことができるように指導することが求められる。

# 設問別調査結果 [小学校国語B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	◇	63.0
	書くこと	5	◆	46.8
	読むこと	5	◇	55.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	◇	55.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	◆	48.5
	話す・聞く能力	3	◇	63.0
	書く能力	5	◆	46.8
	読む能力	5	◇	55.7
	言語についての知識・理解・技能	1	◇	55.2
問題形式	選択式	7	◇	60.1
	短答式	1	◇	45.0
	記述式	3	◆	48.5

表中の札幌市と全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 ○・・・+3.1ポイント以上  
 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント  
 ……ほぼ同程度  
 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント  
 ●・・・-3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等										札幌市		全国(公立)				
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	解答率(%)	正答率(%)	解答率(%)	
1-1	目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、書く事柄を整理する	○													◆	2.1	64.8	2.4
1-2	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する	目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書く	○		○	○	○	○	○	○					○	◇	6.6	35.2	7.0
1-3	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する	手紙の構成を理解し、後付けを書く	○													●	2.6	23.5	2.1
2-1	参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する	司会として収集した情報を捉え、まとまりごとに整理する	○					○								◇	3.3	84.3	2.8
2-2	提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問をしたい内容を明確にして発表するように記述する	資料を読み取った上で、質問をしたい内容を明確にして発表する	○	○			○	○	○							◆	13.1	52.6	14.5
2-3	話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する	司会として話し合いの目的を再確認し、計画的に話し合いを進める	○					○								◇	8.1	52.2	7.6
3-ア	雑誌の特徴の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉える			○											◇	2.8	87.3	2.6
3-イ	記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書く				○											◇	8.4	45.0	9.0
3-ニ	編集者の意図を説明したのとして適切なものを選択する	編集者の意図を捉える			○											◇	3.7	51.0	3.8
3-三	目的に応じ、複数の記事を選び付けながら読もうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する	目的に応じ、記事を選び付けながら読む			○											◇	3.9	57.6	4.2
3-四	二つの記事に書かれている内容を選び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する	複数の記事を選び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつ	○	○		○		○	○							◇	17.1	37.7	17.0

## 【設問別分析】

### 1 依頼の手紙を書く(動物園への訪問)

1 は、目的や意図に応じ、書く事柄を整理し文章を構成するとともに、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書くことができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

【設問一】 目的や意図に応じ、依頼する具体的な内容として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】 目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、返事の仕方と内容を記述する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】 手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置を適切に選択する設問では、全国の平均正答率を下回っている。

「書くこと」領域における「目的や意図に応じ、書く事柄を整理すること」については、全国の平均正答率をやや下回っている。また、「目的や意図に応じ、適切に敬語を使いながら、内容の中心を明確にして書くこと」については、全国の平均正答率をやや上回っている。また、「手紙の構成を理解し、後付けを書くこと」については、全国の平均正答率を下回っており、正答率も低い。

手紙を書くことの指導においては、伝えたい内容が明確に伝わるように、相手の立場に立って、書く事柄を整理することができるように指導することが大切である。また、「前文」「本文」「末文」「後付け」といった手紙の基本的な構成に基づいて書くことが重要である。特に、「後付け」については、日付、署名、宛て名の順に書くことや、日付と宛て名は署名よりも上の位置に書くことなどについて、実際に手紙を書く場面を設定し、具体的に指導することが求められる。

国語科だけではなく各教科等の学習において、依頼状や案内状、礼状など様々な手紙を書く活動を計画的に設定することが大切であり、手書きの手紙を書くことが児童の言語生活の中に位置付くようにしたい。そのためには、日常生活においても機会を捉えて手紙を書くことを奨励し、そのよさを実感できるように指導することが重要である。

## 2 立場や意図を明確にして話し合う（中学校の部活動）

②は、立場や意図を明確にし、情報を整理したり、資料を読み取ったりしながら、計画的に話し合うことができるかどうかをみるものであり、3つの設問で構成されている。

【設問一】参加者から出された質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】提示された資料を読み取った上で、相手に対して質問したい内容を明確にして発表するように記述する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進めようとする司会の役割を適切に説明したものを選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「質問の内容を適切に捉え、まとまりごとに整理すること」については、全国の平均正答率をやや上回っており、正答率も高い。また、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」領域における「資料を読み取った上で、質問したい内容を明確にして発表すること」については、全国の平均正答率をやや下回っており、無解答率も高い。誤答としては、割合の数値を取り上げて記述するという条件を満たしていないものが多かった。また、「話すこと・聞くこと」領域における「司会として話合いの目的を再確認し、計画的に話合いを進める」ことについては、全国の平均正答率をやや上回っている。

話合いの指導においては、自分の経験のみならず、客観的な事実を基にして互いの考えを広げたり、深めたりすることが求められる。そのためには、図表や絵、写真などの資料を取り上げたり、具体的な数値を引用したりし、考えの理由や根拠にするように指導することが重要である。このことについては、社会科や算数科等で学習した資料の読み方を参考にすることが有効である。また、司会の役割や働きを理解し、話合いが目的に即したものであるかを判断しながら、計画的に話合いを進めることが重要である。そのために、司会としては話合いの目的を常に意識し、発言を整理したり、促したり、まとめたりするなどことができるように具体的な場面に合わせて指導することが大切である。

## 3 雑誌を効果的に読む〈特集「マラソン」〉

③は、目的に応じて雑誌の特徴を押さえながら読み、編集者の意図を捉えたり記事を結び付けたりしながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみるものであり、4つの設問で構成されている。

【設問一】雑誌や記事の特徴の説明として適切なものを選択したり、取り出して書いたりする設問では、全国の平均正答率と比較して、ア・イともにやや上回っている。

【設問二】編集者の意図を説明したものとして適切なものを選択する設問であり、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問三】 目的に応じ、複数の記事を結び付けながら読もうとするとき、該当する記事の見出しとして適切なものを選択する設問であり、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問四】 二つの記事に書かれている内容を結び付けながら読み、理由となる事実を基にして自分の考えを記述する設問であり、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域における「雑誌を効果的に読むこと」については、全ての設問において全国の平均正答率をやや上回っているが、「目的に応じ、記事の特徴の説明として適切なものを取り出して書くこと」については、正答率は低い。また、「読むこと」と「書くこと」領域における「複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつこと」については、正答率は低く、無解答率が高い。誤答としては、二つの記事から事実を取り上げて記述するという条件を満たしていないものが多かった。

今後の指導においては、目的に応じて、各種事典や図鑑、パンフレット、雑誌、新聞などの様々な資料やメディアを教材として計画的に活用し、効果的に読むことができるように指導することが重要である。その際、資料の特徴や構成を理解するとともに、中心となる語や文を押さえ、内容を的確に捉えることができるように指導することが求められる。また、目的に応じて、必要となる情報を正しく取り出して整理したり、複数の資料を結び付けたりしながら読むことも大切である。具体的には、資料の全体を大きく捉えて、それらをまとまりに分けたり、文章の内容と図や表などとの関係付けたりしながら読むことが考えられる。さらに、本や文章の情報を基にして、自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。そのためには、書き手がどのような事例を挙げ、考えの理由や根拠としているかを捉えることができるように指導することが大切である。

## 国語学習に関する意識調査 【小学校】

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	28.4	36.2	24.1	11.2
国語の勉強は大切だと思いますか	68.1	24.1	5.9	1.8
国語の授業の内容はよくわかりますか	38.0	46.2	12.3	3.3
読書は好きですか	53.4	22.9	14.6	9.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	55.4	32.9	8.8	2.8
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	19.0	38.9	34.0	8.0
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	18.7	38.8	32.4	10.0
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	28.7	41.7	23.5	6.0
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	37.2	39.4	18.1	5.2

（単位は％）

### ＜設問分析＞

- 「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、64.6％となっており、全国平均を1.6ポイント上回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は67.6％である。今後は、さらに児童の興味関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、92.2％となっており、全国平均を0.4ポイント下回っているものの、全国と同様、肯定的に回答した割合が高くなっている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は92.2％である。今後とも、言語活動の充実を図り、実生活に生きて働く体験的な学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値に気付くような授業を行うことが求められる。
- 「国語の授業の内容はよくわかりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、84.2％となっており、全国平均を1.1ポイント上回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は83.4％である。今後も、児童の実態に即した指導や、意欲を喚起する学習内容、基礎的基本的な指導事項の習熟とともに、個に応じた指導の充実を図ることが求められる。
- 「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.3％となっており、全国平均を3.7ポイント上回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は76％である。札幌市では、一斉読書の推進に取り組んでおり、小学校での実施率はほぼ100％である。今後とも、国語の授業だけでなく、様々な機会を通して、児童の読書活動の一層の促進に取り組むことが求められる。

- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、88.3%となっており、全国平均を0.6ポイント下回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は85.6%である。今後、日常生活に生きて働く言語活動を通した指導の充実を図るとともに、児童が国語の学習の有用性を実感できる指導を一層工夫改善していくことが求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、57.9%となっており、全国平均を3.4ポイント下回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は57.7%である。また、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、57.5%となっており、全国平均を1.1ポイント下回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は56.5%である。今後とも、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の指導において、相手や目的、意図に応じて、自分の考えをもち、組み立てなどを工夫して話したり書いたりすることができるような言語活動を位置付けていくことが求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、70.4%となっており、全国平均を0.9ポイント下回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は66.5%である。今後とも、目的に応じて、児童が自分の考えをもち、その理由を書いたり話し合ったりする言語活動を通した授業を工夫することが求められる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、76.6%となっており、全国平均を1.5ポイント上回っている。22年度の調査では、肯定的に回答した割合は73%である。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識したりしながら読む指導の一層の充実が求められる。